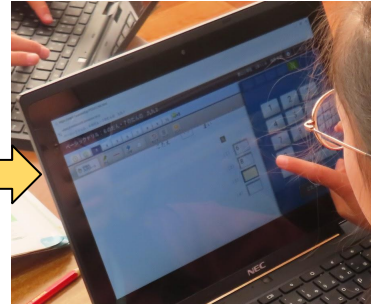
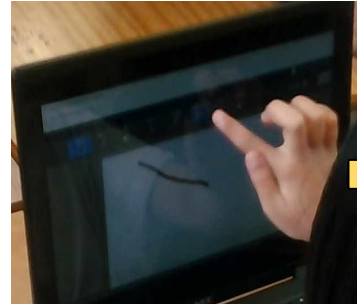


4月からの端末活用の変化(1・2年生)



【1年生】

端末を使い始めた時は教師に教えてもらいながら、アカウントとパスワードを入力してログインをしていた。しかし、国語「じどう車ずかんをつくろう」では自分で写真を撮って、カードを作成できるまで成長した。

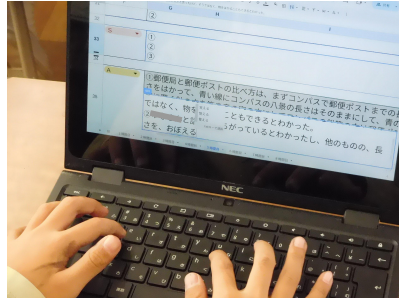
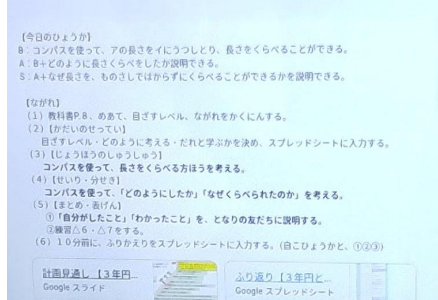


【2年生】

1学期は手書き入力をしていましたが、2学期後半では、端末で教科書のデジタル教材を読み込み、かけ算の問題を解いたり、タイピングで式を入力したりしていた。

低学年から端末使用のスキルを身に付けていくことは重要である。1年生から端末を使った活動を取り入れることで、情報活用能力の基礎を育てていく。

4月からの端末活用の変化(3・4年生)



【3年生】

端末で授業の流れを確認するとともに、学習した後の振り返りを他者の思考と比較・参照することで、自己評価の質を高めている。



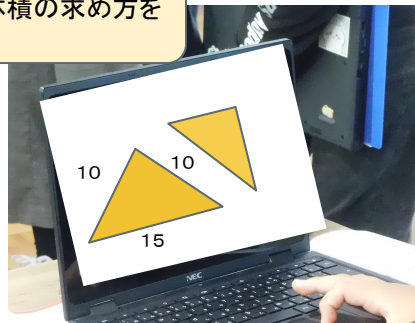
【4年生】

自分の学び方に合わせて、誰と学ぶか、どこで学ぶかを選択できるようになってきた。また、端末を情報の整理や表現する道具として使っている。

学習後の振り返りで他者の考えを参照することで、自身の学び方をメタ認知し、次時に向けての指標をもつことができた。また、自分の学び方に最適な場所や仲間を自ら選択できるようになった。これらは自律的に学習する上では重要な要素である。

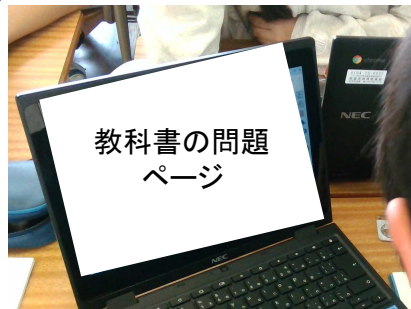
4月からの端末活用の変化(5・6年生)

デジタル教科書を活用して、面積や体積の求め方を考える。



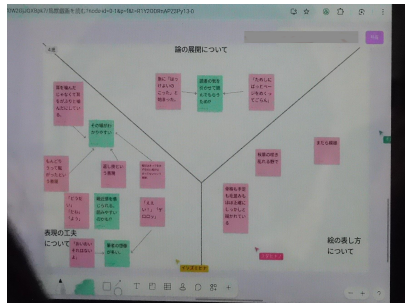
【5年生】

端末で教科書の図形を操作して考えることは1学期から行っているが、数値を書き込むなど、より複雑な操作ができるようになった。



【6年生】

端末を一人で思考する道具から、仲間と探究する道具へと使い方を発展させている。単なる話合いとは違い、自分の考えが文字として残るのも端末活用のよさである。



端末上で図形を動かすといった簡単な操作だけではなく、さらにその図形に収集した情報を書き込むといった複雑な操作へと発展している。また、チャートなどを活用することで、多様な視点を取り入れることができ、課題に対する自分の考えを深める活動につながった。